

Forest通信

vol. 142

森林インストラクター東京会 会報

2024年12月17日発行

合格おめでとうございます！！

森林インストラクター2024年度(令和6年度)資格試験合格の皆さま、合格おめでとうございます。森林インストラクター東京会(FIT)は、現在登録会員343名(2024年11月30日現在)で、東京を中心に、約30年にわたり幅広いフィールドで活躍しています。活動の詳しい内容については、FITホームページをご参照ください。

東京都在住の新合格者は、以下の皆さまです。皆さまのご入会を心よりお待ちしております。

(敬称略・50音順)

我妻 和輝	天野 好章	有田 浩之	生駒 薫	市川 伸一
植木 暢子	大木 義之	大角 勝美	大津 洋介	小笠原 剛司
沖田 董	小田原 治	川島 直子	川野 康朗	久保田 恭司
小島 紅子	小島 幸子	齊藤 英希	坂倉 京子	瀬川 裕啓
田井 紗也子	高橋 ひとみ	為野 陽子	外山 史也	松井 雅子
吉村 真木子	渡邊 維真			以上27名

(この名簿はFITが入会説明会に使用することを限定に、(一社)全国森林レクリエーション協会より提供されたものです。)

友の会合格者

今年は友の会「資格取得支援講座」の受講者から**会員5名、一般会員2名**が合格しました。受講者の努力を称えるとともに「FIT友の会」の講師・スタッフの皆様のお蔭と会員一同感謝申し上げます。

今年度は27名と昨年より増加した。受験者数は334名と微増にとどまったが、女性の合格者が増えて全体を押し上げた。コロナ禍の収束やオンラインでの受験など利便性が増したことによる合格者増につながったと考えられる。また、若い人の入会によって活動の活性化が図り、認知度を高める活動にも力をいれより一層の増加を期待する。

資料提供
(一社)全国森林レクリエーション協会

年	受験者数
2003	1246
2011	559
2017	443
2018	383
2019	382
2020	277
2021	284
2022	280
2023	331
2024	334

★ 2025(令和7)年新年会 (新年観察会・新年懇親会)のご案内

1年間の研鑽の成果を発表する場です 会員の皆さま 奮ってご参加下さい

・開催日 2025年(令和7年)1月11日(土)

・新年観察会(会場:北の丸公園)

(1)集合時間・受付場所:12時30分～13時00分

(2)新年観察会時間:13時00分～15時15分

(3)集合場所:北の丸公園清水門に入ったところの広場

(最寄り駅:都営地下鉄新宿線/三田線・東京メトロ半蔵門線九段下駅より10分、
東京メトロ東西線竹橋駅より歩いて5分)

北の丸公園アクセス https://www.env.go.jp/garden/kokyogaien/2_guide/kitanomarkoen_access.html

・新年懇親会

(1)集合・受付時間:15時45分～16時00分(予定)

(2)開催時間:16時00分～18時00分

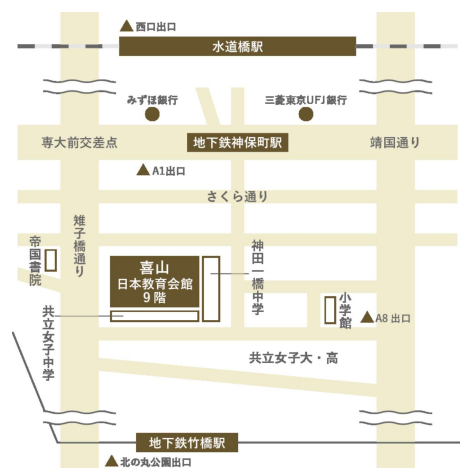
会場:教育会館9F 喜山倶楽部(飛鳥の間)

新合格者FIT入会説明会(該当者のみのご案内です)

(1)会場:教育会館9F 喜山倶楽部(芙蓉の間)

(最寄り駅:都営地下鉄新宿線/三田線・東京メトロ半蔵門線神保町から徒歩3分、
東京メトロ東西線竹橋駅から徒歩5分、JR総武線水道橋駅から徒歩10分)

喜山倶楽部アクセス <https://kizan-club.com/access>



★重要なお知らせ★

1. 新合格者の方に森林インストラクター東京会(FIT)入会のお誘い

今年合格された方は、是非森林インストラクター東京会(FIT)への入会をお勧めします。入会手続きは、合格者の皆様に郵送する入会説明会の資料をご参照ください。なお、入会のご意向の有無に拘らず、2025年1月11日(土)の新合格者入会説明会、新年観察会、新年懇親会への参加を歓迎します。FIT活動の理解や新しい仲間との面識など得るものも多いと思います。入会説明会・新年観察会・新年懇親会への出欠は、資料に同封されているハガキにてご回答ください。

2. 2025年度(令和7年度)年次総会開催について(ご予約ください)

●日時:2025年3月15日(土)12時30分～18時(受付12:00より)

・総会の前後に講演会、懇親会を予定しています。

●場所:後楽園「林友ビル」6F

3. 会費納入(2025年3月1日～2026年2月28日分)に際し、自動払込手續のお願い

ご存じの通り会費の納入は、原則としてゆうちょ銀行の自動払込を利用いただいています。事務量の削減のためにも、まだ手続きをされていない方は、差支えない限り自動払込にご協力いただきますようお願いいたします。申込用紙はホームページのFITデータベース「その他文書」にあります「自動払込利用申込書」をダウンロードの上(もしくは事務局あて用紙請求)、1月25日までにお申し込みください。

なお、従来とおりの振込みをされる方には2月初旬に振込口座をご連絡いたします。年会費は5,000円です。

4. 平成11年度、16年度、21年度、26年度および令和元年度の初回登録者の方へ、登録更新のお知らせ

令和2年1月1日付けで登録した森林インストラクターの登録期間が令和6年12月31日で終了となります。特に資格を令和元年に取得された方は本年末が5年に一回の最初の資格更新時期に当たります。すでに全国森林レクリエーション協会から連絡があったかと思いますが、この更新をしない場合、FITの会員資格も失う(会則第4条)こととなりますのでご注意ください。

<事務局便り>

今年も早いもので師走を迎え、残り日数も少なくなってきました。寒い日が続きますが、体調管理には十分に気を付けて、日々の活動にご活躍ください。

今年の合格者も発表され、FITに新たな仲間を迎える季節となりました。新合格者への説明会、新年観察会、新年懇親会に引き続き総会開催と行事が目白押しです。会員の皆様にもさまざまな場面でご協力をお願いすることになりますが、よろしく願いいたします。

●会員情報

会員数(2024年11月30日現在)343名。

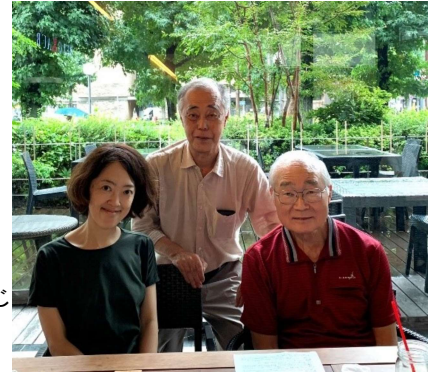
FIT新人が先輩に聞くシリーズ 第2弾

FITで過ごした32年を振り返る ～高橋喜蔵さん

2024(令和6)年9月1日 インタビュー
池袋にて(萩原・西出)

森呼吸クラブの目黒の自然教育園で一度高橋さんの観察会に参加したところ、その場でお花をマクロ撮影して、その神秘を紐解いてくださいました。そんな高橋さんにどんな時も探求心を忘れない森林インストラクターとしての道をお伺いしました。

2024(令和6)年9月1日
台風の合間を縫ってインタビューに応じ
てくださいました。



■ 森林インストラクターとしてのキャリア

森林インストラクターを目指すきっかけはどんなことですか？

資格を得たのは1992(平成4)年です。いつの間にかインストラクター歴32年にもなっていました。元々、久喜市出身で川で魚を取って遊んだりしていましたが、いわゆる昆虫少年ではなかったですね。1991(平成3)年に森林インストラクター試験制度ができる前から山歩きを通して、高山植物に興味を持っていました。一緒に山歩きを楽しむ仲間にも恵まれ、植物などの解説をして喜ばれていました。そんな折、新聞記事で農林水産大臣認定の国家資格として森林インストラクター資格試験が行われることを知り、一緒に山に登り、師として仰いでいた飯田有貴夫さんにも呼びかけ受験しました。資格を得ることにより、活動の場が広がることを期待してのことです。

3年連続で難関の試験を受け、2004(平成16)年に第2回「緑花文化士」に認定されたのですよね？ 日井治子さんと「緑花文化士」の同期だと伺いました。

森林インストラクターになったのが、1992年ですから12年を経ています。ただ、森林インストラクターより間口の広い試験内容でした。植物中心の試験ですが、文化と植物として、衣食住、文学、詩歌、絵画、祭事などとの関わりを問われました。なかなか手ごわい内容なのですが、森林インストラクターになってから、興味の間口を広げていましたので、対応できたのかと思います。特級、1級から5級までの6段階の認定結果で特級を3回認定されると「緑花文化士」になれました。特級には全体の0.8%から1.6%の受験者が認定されました。特急の認定率が低いのは、幅広い市民が楽しんで受験する試験だったからでもあります。

2002年から2009年までの8年間に渡って、東京都公園協会の市民カレッジで緑・花文化の知識認定試験対策の講座を担当しました。FIT会員の大石征夫さんや仲田晶子さん他の助けを得たことに改めて感謝したいと思います。4回の連続講座でしたが、多い年には7回の連続講座もありました。座学、

野外実践講座、最後は模擬試験を行いました。毎年受講する方も多かったので、毎回、資料作りに苦労しました。一番大変だったのは、80問の模擬試験問題の作成でした。今となっては楽しい思い出です。

他に、生物分類技能検定2級(植物部門)とグリーンセイバー・マスターの資格もお持ちとのことですが、こちらはどんな経緯で取得されたのですか？

生物分類技能検定について学校教育において「生物」は、特に多様性の基本ともいうべき「種」の概念、「種の区別」に関する教育が、質、量ともに減少しているとの危機感から1999(平成11)年に創設された検定制度です。1999年に3級を受験し、2000年に2級を受験し、合格しました。グリーンセイバー・マスターには2000年ころに合格しました。

木の日研修などでの質問からうかがえる高橋さんの知識の幅広さと深さに驚かされます。その知識や探求心、好奇心をどのようにキープされているのですか？

緑花文化士試験に臨むに当たって、興味の間口を広げた訳ですが、世の中知らないことだらけなんです。知りたい欲求が質問に繋がっています。専門家から疑問に答えていただくせっかくの機会なので、日頃の疑問を解消する良い機会と捉えています。図鑑などにポストイットを貼り付けて、疑問点をメモするようにしています。

森林インストラクターは、高橋さんにとって自身のキャリアにどのような影響を与えましたか？

仕事との関係では一時的に植物の知識を生かす機会がありましたが、趣味の領域です。特に退職後には生きがいとなっています。

■ FITとのかかわり方

高橋さんにとってFITはどんな存在ですか？

山歩きから高山植物に目を向けるようになり、次第に低山や里の動植物にも興味が広がり、今ではFIT活動が生活の一部になっています。FIT創設時からのメンバーではありますが、FIT立ち上げの中心を担われた方々に感謝しています。

FITのどんな活動に携わってこられましたか？

ふれあい事業や外部案件の班長や主幹事をやってきました。2017年度から2022年度までの6年間研修部長として過ごし、その後研修部副部長となっています。時々、研修講師になることもあります。

活動初期の、楽しかったこと、思い出に残っていることを聞かせていただけますか？ また逆に苦労話などがあれば聞かせてください。

森林インストラクターになって間もない時期は、今のような組織立った活動があったわけではないので、個人活動が中心でした。東京の森林インストラクターの人数も限られていたので、宿泊研修などは楽しかった思い出があります。

お仕事の現役時代と退職されてからは関わり方は変わりましたか？ どんな変化でしょう？ どのくらいの時間を割いて活動されていたのですか？

現役時代はあまり活動はできませんでした。木の日研修に参加したいと思っても、思うように参加できなくて悔しい思いもしました。どうしても参加したい場合は休暇を取って参加しました。研修部長の時、新型コロナで会議室に集まったの研修ができなくなった関係により、手探りでZoom研修を始めました。後日、録画を見られるので、良い環境になっていると思います。

■ 森呼吸クラブ

森呼吸クラブでガイドとして活躍されていますが、どんな経緯で関わることになったのですか？また、今後どんな活動をやりたいと思っていますか？

森呼吸クラブは2005(平成17)年合格者により、その翌年に創設されました。森呼吸クラブの創設者の一人である永井和久さんから声をかけていただき、2016(平成28)年に森呼吸クラブのメンバーになりました。森呼吸クラブのフィールドは主に都内の庭園・植物園ですが、リピーターの方に興味を持っていただけのような新規の場所を開拓したいと考えています。リピーターの方の年齢・体力などを考慮すると、おのずと場所は限定されてきますが、その条件で探すことが面白いです。

■ 登山について

登山もお好きと伺いました。どんな楽しみ方をされていますか？

山仲間がいますので、山や時期を相談し、計画を練り、実施しています。動植物に興味を持つ仲間なので、楽しく歩いています。2024年の夏山は白馬岳で、沢山の動植物に出会ってきました。白馬大池ではクロサンショウウオの幼生を捕まえて楽しく観察することができました。

山から教わったこと、教えられたことはどんなことですか？

自然は美しいものですが、美しいだけではなく恐ろしくもあります。油断して出かけると、怖い思いをすることもあるので、十分な準備を整えて登ると楽しめます。平ヶ岳の平らな頂上付近で雷が来たときは、窪地でやり過ごしましたが、怖かったですね。

森林インストラクターにおすすめの山を3つ教えてください。おすすめの理由は？

3つに絞るのは難しいですが、北岳、白馬岳、早池峰山ですね。多くの植物があり、展望も素晴らしいです。

■ 今後の活動

今後どんな活動を行っていきたいですか？

植物が生き残るための戦略、それが分かるとより愛おしくなるので、自分で楽しんで、また、一般の方に伝えたいです。そのために、本から学んだり、自分で細かく観察して、その秘密に迫りたい。

最近読んだ本では、田中肇『花と昆虫、不思議なたましい発見記』が面白かったですよ。

今後、森林インストラクターとしてありたい姿について教えてください。

森林インストラクターとして活動するためには、常に勉強が必要なので、新たな知識を仕入れたい。しかし、忘れることが上回ってしまうことが悩みのタネです。参加者が自然の不思議に感動する姿を見られたら、自分も嬉しくなるので、それを目指したいですね。

■後輩へのアドバイス

インストラクターとして活動するにあたって、どんなポイントに気を付けていますか？後輩へのアドバイスをお願いします。

皆さん、自分なりに努力している人ばかりなので、アドバイスなんておこがましいですが、私が気を付けている点は、参加者を置き去りにしない観察会の実現です。班の全員に声を届け、反応を確認し、植物の生きざまを伝えることにより、感動と共に植物への理解が深まると嬉しいです。公園だと10人、山道だと6-7人以下だと、参加者の顔を見ながら説明できるので、皆さんに満足して帰ってもらいやすいと考えています。

森や山に観察に行く時に持っていく7つ道具をお教えしましょう。

- 1) 顕微鏡モードがあるToughのカメラ
- 2) 「マクロ観察」機能で約50cmまで近づいての観察が可能なリコーの双眼鏡Papilio
- 3) ルーペ（森林インストラクター必携品）
- 4) ピンセット（花を分解するときなどに便利）
- 5) 葉っぱや地衣類の断面を観察するためのFEATHER社のかみそりの刃（カッターだと刃が厚すぎるのかみそりの刃がおすすめだが、最近はドラッグストアなどでは売っていないのでWebで購入）
- 6) ラミネートした方眼紙（1mm角の線が入っているので、大きさが分かる）
- 7) 定規がついているコンパス（対象物に定規をかざして撮ると、後で大きさが確認できる）
- 8) 葉っぱなどを持ち帰るビニール袋

何より自分自身が楽しいと思うことが大事ではないかと思います。マンションの植え込みでも、ユズリハ、ハナミズキなどの定点観測できたりしますからね。



葉っぱをかみそりの刃でカットし、方眼紙に載せる様子を実演してくださいました。

〈編集後記〉

- ・おだやかな口調で話される高橋さんのお話を聞いていると、とどまることのない学習意欲と旺盛な好奇心を感じ、見習わないといけないと思いました。「でも、よく忘れるんだよね。やはり継続が大切だね」と言われたときはちょっと安堵もし、共感しました。インタビューが終わりかけた時、高橋さんのかばんからFITの名札と腕章が覗いていました。やはり高橋さんにとって、FITは身近で大切な存在なのだなと感じました。（萩原記）
- ・高橋さんに初めてガイドしていただいたのは、深呼吸クラブの目黒自然教育園での観察会に参加したときでした。顕微鏡モードつきのカメラで、その場でマクロ撮影した花の構造を見せてくださり、生きる戦略を楽しく詳しく教えてもらいワクワクしたことを覚えています。その裏には、常に観察セットを持ち歩く森林インストラクターのお手本のような努力と好奇心があったのです。圧倒的に博識な高橋さんでも「現役時代はFITの活動をあまりできなかった」と伺って、励まされる思いがしました。（西出記）

銘木屋さんの心意気～清水好博さん

2024(令和6)年9月7日インタビュー
荻窪にて(立川・岸本・西出)

銘木とは、「その美しさを末永く鑑賞できる価値ある無垢材の総称」とのこと。(川越銘木センターのホームページより抜粋)。どんなお仕事なのかずっと気になっていたのが、清水さんに教えていただきました。鳩ノ巣フィールド自主作業の帰りに、爽やかにインタビューに応じてくださった清水さん、さすがは材木の業界で培った体力で、疲れは微塵も感じられません。



ケンタッキーで鳩ノ巣3人衆

■銘木屋について

以前、材木を扱っていた、と伺った覚えがあるのですが、どんな家業だったのか教えてください。

銘木屋です。農家の3男だった父は、戦後すぐ、実家の小金井市から中野に出てきました。仕入れて売る商売を始めて、最初は八百屋、竹屋(燃料として竹を販売)、さらに、トタン作りの古材・資材の手配なども行っていました。銘木屋の清水」として和風建築に使う材料を扱うようになりました。

私は、1950(昭和25)年に生まれ、中学1年生の頃から配達の仕事を手伝っていましたよ。昭和39年の東京オリンピックの時も自転車にサイドカーをつけて配達していました。

「銘木屋」って聞き慣れないのですが…。

昔は、家を建てるとなれば、和室ですから、天井・柱・床や仏間・床の間など、工務店がトータルコーディネートし、施主も木を選ぶ文化が残っていたのです。平安時代の寝殿造に始まり書院造り、千利休が床の間の文化を発展させた、木の住宅の文化が続いていたわけです。その頃は、無節材は、節あり材の5倍から10倍の価格でした。その後、現代では和室がない家やマンションが増え、住宅の文化は変わりました。



どこから買い付け、どこに卸していたのか？

仕入れは、全国に銘木市場が30ヶ所ぐらいありましたが、消費地に近い東京の銘木市場で行うことが多かった。その頃は旧木場や荒川区、小平市にもありました。小平の市場は父も設立に関わりました。そこで買い付けた木材を、主に地域の材木店や工務店に卸していました。

木材は5-10年自然乾燥させたほうがよく、仕入れておいて、欲しい人がうれば売るという気の長い商売です。檜原村の250年の檜を原木で買って製品化したこともあり、現在その一部は大黒柱としての地域の自治会の集会所に使われています。

商業なので販売してくれる仕入先の開拓が先決です。何も知らない素人に最初に取引を開始してくれ

たのは茨城県坂東市海老原銘木店(サクラの皮を加工木材に接着して化粧材としたもの)、京都北山の西政商店(磨き丸太類)でした。そのことは今でも感謝しています。また千葉県には土壁の下地に編み込む木舞竹(いわゆる篠竹)も買い付けに行きました。

隆盛期はいつ頃だったのでしょうか？

1960年代から1970年代の石油ショックの辺りが、需要のピークだったと思います。1980年代後半から1990年代初頭のバブル期にも、まだ昔ながらの流通形態(市場・産地→卸売り→小売り(工務店売り)→施主)での販売が主で、それで十分利益が出ました。しかし、40年くらい前から大手資本のハウスメーカーが建築に進出し、徐々に地域の工務店のシェアが低下し始めました。その後、高齢化と人口減社会、洋風化という家文化の変遷などにより、自ずと現在の業態にならざるを得ませんでした。

今は、川越のほうで銘木を扱っていらっしゃるということですが、どんな業態なのでしょうか？

1970年代に川越営業所を出店し、その後、姉夫婦が引継ぎ川越銘木センターとして独立しました。川越は城下町で家にお金をかける文化が残っていたんですね。現在は大工(工務店)、施主、好事家などあらゆる方面に販売し何とかやっています。全国発送もしています。常に時代に対応しなければ生き残れないのは企業の宿命です。

ネットでも販売しているのですか？

ネットから問い合わせがありますね。紫檀と黒檀などの中国南部からインドシナで採れる貴重木材は唐木とよばれ、床の間周りや仏壇製造など昔から日本に深く根付いていました。現在はワシントン条約で産地から原木の輸出は禁止されているので、一時中国から買い付けにきたこともあります。

■FITとのかかわり方について

森林インストラクターには2013(平成25)年に合格されたそうですが、を目標すきっかけとなったことはどんなことか教えてください。

当時テレビ番組がきっかけで山登りを始めましたが、4~5年して、登るだけでは能がないと花の写真を撮り始めたのがきっかけです。

森林インストラクターは、清水さんにとって自身のキャリアにどのような影響を与えましたか。

仕事の面からみると、何の影響もありません。私の人生という面からみると、それなりのことを学んだということで、いくらか余裕ができましたね。

FITのどんな活動に関わってこられましたか？

特にこれと言って意識して関わったことはありません。気が向いたら参加するという程度ですから、FITという組織には協力的ではないメンバーです。無理なくできる範囲で活動しています。現在は自分の少年、父親、余生と3時代にわたる都立和田堀公園との関わりから、FIT杉並会にお世話になっています。

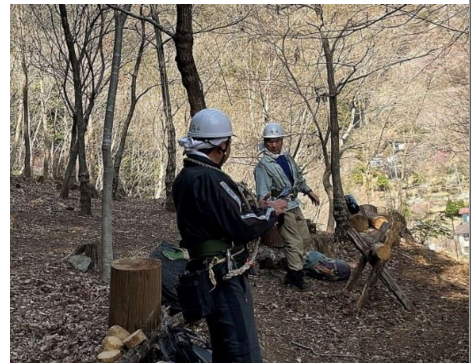
鳩ノ巣自主活動に携わることになったきっかけはどんなことか教えてください。

きっかけは特にありません。新会員の体験歓迎会みたいなのがあって鳩ノ巣フィールドに行って、飲んで帰ってきたのですが(10年前なので記憶はあいまい)、当時ずっと続けるとかそんな意識はまるでありませんでした。しばらく通ううちに、途中で止めるのも癪だと思ふようになり、現在まで続いています。“長老”って言われたりしますが、技術的には一向に進歩しません。鳩ノ巣という場はただ楽しむだけでなく、いつも研修の場ということ意識しています。今まで指導されたことを守っているか常に考えながら楽し

むようにしています。

活動の中の楽しかったこと、思い出に残っていることを聞かせていただけますか？また逆に苦労話などがあれば聞かせてください。

自分から望んで参加しているので楽しいことばかりです。作業上の苦労は楽しみでもあります。最近も、掛矢を持ち帰って修理したりしました。



清水さんにとってFITはどんな存在ですか。

メンバーの皆さんの活動されている様子に刺激されて、自分もそれに近づこうという意欲を掻き立てられるところですね。

■今後の活動について

今後どんな活動を行っていきたいですか？

自分の育った地域の人たちと協力し、今までの経験を生かした活動をしていきたいと思います。

観察のときに、どんなポイントに気を付けていますか？

今自分が見ている情景、現象はなるべくしてなっている。その理由を理解したいと努めています。分からないことがあったら調べてみるというクセがつかしました。調べていくうちに新しい疑問が派生する。調べると疑問がとけることがある。これの繰り返しです。

例えば、ジャコウアゲハは、ウマノズクサ科を食草としていて、それに含まれる毒物質を成虫になっても体内に蓄積しているので、鳥は一度食べたら、もう食べない。だから、優雅にふわりふわり飛ぶんですね。

房総半島をよく歩かれて、FITのHPの「自然発見」に投稿されていますよね？

途中で止めるのも中途半端な気がして続いています。春行ったら、夏は？と知りたくなるのでね。季節の変化がよくわかります。

.....

〈編集後記〉

・清水さんのお話を伺った後に、今は甥御さんが活躍している川越銘木センターのホームページを覗いてみました。なんと7m以上のケヤキ柱材(自然乾燥16年以上)をはじめ、銘木・無垢材が数多くそろってました。清水さんのお父さん、清水さん、お姉さんご夫婦の心意気が継承されているようです。しかもご商売として独特の位置を確立されています。木の文化の一端を知ることができました(それにしても、何も知らないな・・・)。(立川記)

・祖父母と叔父が広島で仏壇屋をやっているので、昭和から平成・令和にかけて、似たような歴史を辿ってきた銘木屋さんのお話をとても興味深く聞きました。木を愛するFITの皆さんなら、銘木を味わうことができるかもしれませんね。FITの活動には「気が向いたら参加する」との照れ隠しとは裏腹に、長く広報部会でWebの更新やForest通信の編集などの裏方仕事を辛抱強くやったださっている親分の姿を後輩は見えています。(西出記)

残したい文化

年末も押し迫ってくるとどこの家庭も来年の準備に忙しい。大掃除、おせち料理、門松やお飾り取り付けなど大わらわである。私の住んでいる都心部でも年末には所々で各家庭が餅つきをした。杵でつく音が一層雰囲気を盛り上げ、子どもも楽しみにしている行事だ。やっと終わり除夜の鐘をききながら一年過ぎたという感慨に浸る、というのが40～50年前までのごく普通の年末風景だった。

時代は変わり現在はほとんどこのような光景は姿を消してしまった。ある意味重労働から解放されて喜ばしいことだと思う反面、年末気分も希薄になってきて、一抹の寂しさも覚える。

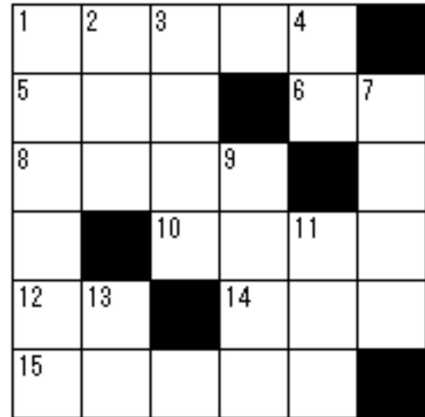
それでも、まだ年末に自宅の庭で餅つきをしている家庭がある。薪で湯を沸かし、もち米をふかす。今年は故あって自治会の集会場の広い前庭を借りて実施したという。ところがもちつきが始まって1時間も経つたろうか。遠くから消防車のサイレンがなってもちつきの前で止まった。その人は何かと思い署員に尋ねると、近隣から杵を突く音が響いてうるさい上に、薪をたいていて危ないというクレームが入ったからだという。ということで一時中止になり翌日に延期になってしまった。まあ都会だから仕方ないとは思いますが、長く続けてきた年末行事に水を差され残念な思いだったという。

拙宅の近隣に真言宗の寺がある。5～6年前に鐘撞堂を新築して、除夜の鐘を撞いたところ、うるさいというクレームが近隣から入ったという。騒音と考えずに別のとらえ方ができないものだろうか。

おせち料理にはじまりぼたもち(牡丹餅)、柏餅、おはぎ(お萩)、ヨモギ餅、月見団子、など、季節・季節の食文化に関しても、近年ではほとんどの家庭で姿を消してしまった。確か以前は食文化を伝える登録グループがFITにあったような気がする。

できるものは一つでも残したい。ささやかだが心豊かに過ごせるのではないかと思うのだが……。

FITクロスワードパズル

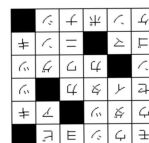


タテのカギ

- 1.食虫植物といえば
- 2.カバザクラは〇〇〇カンバのこと
- 3.〇〇〇〇ぶりをするなよ すぐメッキがはがれる
- 4.暑いと〇〇ホールがもうかる
- 7.漢字では啄木鳥とかく
- 9.ホテルのえさになる
- 11.戦の戦術を考え、大将に助言する人
- 13.センリョウ、〇〇リョウは縁起のよい植物

ヨコのカギ

- 1.今年はこの日が観測史上もっとも多かった
- 5.成功するとあがるもの
- 6.赤トンボの代表といえば 〇〇アカネ
- 8.秋に一面黄色の花でおおい尽くすキク科植物
〇〇〇〇アフダチソウ
- 10.これでジャブジャブをしてはいけません
- 12.高尾山で発見されたレモンエ〇〇
- 14.クワガタはこどもに〇〇〇がある
- 15.肉質化した花梗はあまくておいしい



解答

フォレスト通信Vol.142

発行者 森林インストラクター東京会

編集 広報部会 清水好博 西出幸子

取材協力 立川洋一 萩原 卓

事務局長 藤岡 眞

所在地 〒263-0005 千葉県稲毛区長沼町87-3

スマートビレッジ稲毛F棟503号

メールアドレス: sfujioka0206@yahoo.co.jp